

菊栽培の一方法 菊の根上げづくり

片山 仁右衛門

菊の種類は非常に多い。そしてその栽培法も様々である。よく菊花展覧会に行って見ると驚くほど多種多様を極めている。好みによって花、枝、根など種々の形があって色も様々で小輪から大輪まで実に複雑なものである。いま菊の根上げ作りといふ一方法があるのでこれを紹介してみよう。

この方法を考え出したのは初め菊の岩づくりをしていましたことからで、岩に根をはわせて空気中に出し、上部に小枝をつけ葉や花をつけることであった。非常にむつかしく、2年や3年ではなかなか出来るものではない。

そこでまず初年に、高さ25cmほどの岩に根づけをしてみた。そこで考えたことだが25cm伸びれば、まだまだ長く延びる筈だ。そこで私は一足飛びに1m根を目標として栽培にとりかかった。ところが50cm、100cmとついに1mまで根を空中に上げることに成功した。もちろん1mの空中根の下には小根は密生している。ところでよく注意して栽培すれば、まだまだ上げられると思った。次に1.5mまでを目標とした。隣家から柘榴の茎の枯れた直徑18cmくらいのものをもらい、それに根を付着させた。それからが問題で根を延ばすのは普通の育て方ではなかなかそう簡単に延びるものではない。しかし水と肥料を適当に与えれば、実際には苦労はないはずである。例えば人間でも飲料水と食品さえあれば他国へ行っても土地さえあれば、また住居も持てばむやみに環境を吟味しなくてもよいはずである。ゆえに菊の根を延ばす為には、水を根が要求する状態にあればここまで來い、肥料が欲しいなら少し先きまで来いというふうに、細根の直下に与えればよい。特に肥料はわずかでよい。こんな具合である程度まで延ばし得るのである。

次に芽分して根が出たら1.5mの竹の筒を半分に縦割りして、これを合わせてこの中に肥沃土を入れ、鉢からとり出して竹筒に植え、根が段々延びたら、片方の竹をはずして、根の延び方を常に観察しながら研究しなければならない。

次に水をかけてやっても上から水をぶっかけても、肝心の吸収力盛んな根のところまで行くものではない。それでも根の末端に近い所へ水をやりその水が毛管引力で細根の所まで行くようにしなければならない。あくまでも根の上部から水をかけてはならない。それどころではない、ビニールで水が根の上部にかららぬように覆うでやらねばならない。

このようにして根はドンドン下へ下へとさがってゆく、そして予定の目標点まで延ばし、これ

から大きなやゝ浅い鉢に植え支柱となる柘榴の木に付着させて結びつけるか、または柘榴小枝の切れ端に付着させる。なおこの際は菊の上部、すなわち枝葉のつく部分だけが柘榴の木の上にあるので、その下は太い根が柘榴の茎と離れている。次にしばらくして水と肥料をドンドン与える。

次に繁つてくる上部の枝を修正する。この修正は自分の好みに応じるようにし、やゝ大きくなつたころむだ枝を切りとる。しかし根をむやみに大きく、また根を繁らせても切る枝はそんなに沢山出るものではない。それで根も少々切りとることが必要になつてくる。ともかく根をむやみに長く延ばしても、切りとる枝はそんなに沢山出るものではない。

そうする内に根(空中根)は段々太くなり、葉が繁り、秋ごろになると花が開く。柘榴の木は菊をへたばかりつけるだけで、外は何の関係もない。

芽分けしてとつた芽の成長は1年間は全部思うままに予定の長さになるが。数年間枯れないようになるには、花が終わつたら枝を全部切らずに枝のついたままとし、新芽の出るのを待つ。この新芽が伸び繁つてるとポツポツ古枝を落すのである。そして翌年も生育するように育てる。

栽培にあたつて重要なことは土である。土は田園の畦土、特に高く盛り上がりよく風化した土に石炭を燃焼した残り穀、いわゆる炭かすを混せて造る。これは人によつて様々で一様ではないが勿論一般栽培家は腐葉土を使うが、私は決して用いない。堅くて鋸鎌がやっとささるほどの堅さであるが、これに秘伝がある。

虫害は蚜虫がつく、これは丹念にとり除く。そこで使用する栽培土壤は農薬をわずかに溶け入れて放置してから用いる。根腐れ病は、大きな植木鉢に腐葉土を主とした土を入れ、水はきのよくなない装置にしておくからである。そこで私の方法では鉢は大きくても浅いので、水はけがよく根腐病は決して起こらない。

冬期は土縁に入れる。土縁は東向きの場所がよい。花がすむと土縁に入れる。そして霜や氷のはる夜、雪の降る日などは保護し、夜は特に風をよけ暖かくする。暖かくするといつても別に温室に入れるわけではない。春の彼岸がすむと土縁から露地に出し雨が降ってもそのままにしておくのがよい。そして前述の仕立てにとりかかるのである。

菊の種類は小菊か中菊が面白く、大輪物はよくない。小菊の花が密生して枝ぶりがよく、鳥の飛んでいる形や鬼がすわっている形など様々に仕立てると非常に面白い。

菊の栽培は特に細かい注意と叮嚀な手入れを必要とする。毎日2回は少なくとも見廻わって形を正し、虫害を予防し、乾湿の度を適正にしなければ決して立派なものはできない。根上り作りも2年や3年は失敗があってなかなか思うどおりにならない。下葉一枚も枯さず黒味を帯びたしっかりしたものに作り上げるのにには、相当な努力がいる。